資料５－３

大学における標準化関連講座のシラバス

大学名・シラバス記載事項

大学名
中央大学
中央大学　ワークショップ
大阪大学
広島大学
三重大学
山口大学
山口大学　セミナー
情報セキュリティ大学院大学
東京理科大学
関西学院大学
多摩地区国立大学（5大学）

記載項目
授業科目名
担当教官・所属等・実務経験の有無
授業概要
授業/学修の目的
一般目標・到達目標
授業計画・学修内容
教科書・参考書等
成績評価の基準等
備考

調査、ヒアリング等の結果としての課題

- 学生が当該講座で「何を習得してもらうか」を定めることが容易ではないこと。
- 標準化に関する講座設定に必要な科目に関する情報（ガイドライン等）が少ないこと。
- 標準化に関するテキストが少ないこと。
- テキストが存在しても、当該テキストにおいて標準化の対象となっている技術が「現状の技術にあっていなくて」学生に理解できないこと。
- 標準化＝社会実装であることから、産業界の方々にも講師となっていただくことが適切ではあるが、大学単体ではそれらの講師を見出すことが容易ではないこと。
- 社会における技術ツールとして、大学で標準化関係の講座を実施することは重要ではあるが、受講した学生が社会に出て役立つものとするためには、標準化単体ではなく技術ルール、またはイノベーションの一環として、講座の内容については産業界と共同開発すべきであること。

中央大学　1/3

授業科目名	国際規約と国際標準化団体				
担当教員	大手英明	所属等	国際情報学部　特任教授	実務経験の有無	有
授業概要	国境を越えて情報が流通する情報通信の世界では、通信規格や取り扱うデータのフォーマットなど、国際的に通用する標準が定まっていることが極めて重要となっている。 このような国際的な標準には、デジュールスタンダード（標準化団体により定められた標準規格）のほか、デファクトスタンダード（事実上の標準規格）があるが、その双方について、代表的な標準規格の概要及びその形成過程を概説する。 国際標準化団体については、ITU（国際電気通信連合）やアジア・太平洋電気通信共同体（APT）といった情報通信に特化した団体を中心に取り扱うが、そのほかに関連する国際機関としてOECD（経済協力開発機構）、APEC（アジア太平洋経済協力）、ASEAN（東南アジア諸国連合）、AI関連でGPAIやIGFなども取り上げる。 講義においては、総務省及び経済産業省の標準化担当部局、国際折衝の経験を持つ実務担当者を随時招き、国際標準化に関する我が国のプレゼンス・参画状況など、実際の現場経験を直接聞くことも予定している。				
授業・学修の目的	情報通信機器の様々な機能において取り入れられている国際標準規格及びその形成過程の概要を把握し、新たな技術開発やサービス実施と規格の標準化の関係についての基本的な知識の修得と日本における標準化戦略の課題とその改善方策について論理的に考察し提案できるようになることを目的とする。				

中央大学　2/3

一般目標・到達目標	1 標準に関する基本的な知識や代表的な国際標準化団体や標準化事例についての知識を修得すること 2 近時における技術規格の国際標準化動向を把握すること 3 標準に関連する事項について論じられるようになること
授業計画・学修内容	第１回 ：イントロダクション 第２回 ：基礎知識（１）：概念整理、沿革、主な国際標準化団体 第３回 ：基礎知識（２）：WTO、政府戦略の沿革、JISについて 第４回 ：実務担当者による実務解説（１）：情報通信における国際規格の企画・立案に係る現状と課題について 第５回 ：標準化実務の流れ、ＩＴＵ関連について 第６回 ：実務担当者による実務解説（２）：経済産業省のおける標準化政策について 第７回 ：実務担当者による実務解説（３）：デジタル分野の多国間合意形成の枠組みについて 第８回 ：各種事例（１）：デジュール標準（ネジ、FeLica、QRコード等） 第９回 ：各種事例（２）：デファクト標準（キーボード、ビデオ、DVD、PC、ブラウザ等） 第10回：各種事例（３）：デジュール標準下でのデファクト標準（第３世代の携帯電話）、政府戦略等の直近動向 第11回：標準必須特許（SEP）について 第12回：新しい分野の標準化（AI関連を含む）、主な国際機関（OECD、APT、APEC及ASEAN） 第13回：国際展開戦略等 第14回：総括

中央大学　3/3

教科書・参考書等	江藤学「標準化ビジネス戦略大全」日経BP日本経済新聞出版本部（2021） 奈良好啓「やさしいシリーズ12　国際標準化入門」日本規格協会（2004）
成績評価の基準等	レポート　60% 標準と標準化の沿革及びその概要や、代表的な国際標準化団体や標準化事例に関する基礎的な理解を確認し、諸外国や企業等の実際の動向を踏まえた国際標準化に関する考察を行い、根拠をもって論じられるかを評価します。 平常点　40% 指定した資料等の閲読や、特に実務担当者による講義の際に積極的に質問やアンケートへの協力等を行うこと。
備考	■課題や試験のフィードバック方法 授業時間内で講評・解説の時間を設ける／授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う。 ※manaba:中央大学の学生・教員が利用する授業を支援するシステム ■アクティブ・ラーニングの実施内容 グループワーク／プレゼンテーション ■授業におけるICTの活用方法 クリッカー

中央大学　ワークショップ

授業科目名	ワークショップ「グローバル経営におけるルール形成戦略」				
担当教員	国松 摩季	所属等	国際情報学部　教授	実務経験の有無	有
授業概要	グローバル経営を成功に導くために必要となる国際標準、規制、制度、仕組みを形作り、動かしていくためのルール形成戦略に必要な知識を、実例を通じて学ぶ。（2023年実施）				
授業・学修の目的	世界的なルール形成で用いられる技能や知識を伸ばしていくことを目標とし、関係者の利害関係を読み取りながらの合意形成、関係者から賛同が得られる新たなルール提案（新規業務項目提案）、賛成票を増やすためのロビイングなどを、各国代表団の立場で実践した。 持続可能な社会を実現するためのエネルギー政策に関わるテーマについて、5カ国のグループによる3か国語を駆使した国際経営学部らしい時間となった。 グループ毎に自国や交渉相手国の立場を分析し、交渉戦略を練り、交渉会合やロビー活動を行い、最終的には提案に対する投票を行うという一連の活動について、参加した学生からは、「座学だけでは分からない部分も実践的に理解できた」「クラスメートと多くのコミュニケーションをとることで知識が深まった」「将来、多くの場面で応用できる経験となった」といった声が聴かれた。 今後も国際経営学部では、高い専門性を持ち実務の最前線で活躍される方々のご協力を得て、実践的で特徴ある取り組みを行い、視野を広げる学びを通じてグローバルリーダーの育成に努めていく。				

大阪大学

授業科目名	国際ビジネスと標準化				
担当教員	上西 啓介	所属等	大学院工学研究科　ビジネスエンジニアリング専攻　教授	実務経験の有無	ー
備考	その他の開講講座：「知的財産権」、「知的財産権演習」				

広島大学　1/2

授業科目名	ルール形成のための国際標準化				
担当教員	国岡 正雄	所属等	国立研究開発法人産業技術総合研究所, 材料・化学領域, 主任研究員	実務経験の有無	有
授業概要	将来、企業や団体で標準化を担う人材の初期育成を目的に実施する。「標準化」の基礎、作成プラットフォーム、具体的な標準化実例（資源循環、性能評価法等）を学ぶことにより、将来のビジネスモデルの構築において、標準化を視野に入れることができる人材を育成することを目指す。最近では、社会の安心・安全のための「標準化」に加えて、新たな市場を創造・拡大するためのツールとしての「標準化」の重要性も高まっている。将来、自らルール形成に参加する意識を持つことを目的としている。				
授業・学修の目的	ー				
一般目標・到達目標	ー				

広島大学　2/2

授業計画・学修内容	第1回　標準化・ルール形成についての基礎 第2回　標準化・ルール作りの具体的実例（1）（自動車関連） 第3回　標準化と特許 第4回　標準化・ルール作りの具体的実例（2）（資源循環） 第5回　標準化・ルール作りの具体的実例（3）（バイオプラスチック） 第6回　標準化のビジネスでの活用 第7回　標準化・ルール作りの具体的実例（4）（加工性能評価法） 第8回　講義まとめ レポート
教科書・参考書等	参考図書：江藤学編『標準化教本－世界をつなげる標準化の基礎』日本規格協会、2016年
成績評価の基準等	授業への参加態度（50%）と講義後一週間以内に提出が求められるレポート（50%）で評価
備考	■メッセージ 標準化・ルール形成についての理解は、卒業後、社会に出たときにとても役立ちます。この講義を通じて、「誰かが標準やルール作り、自分はそれを守っている。」という意識から、「自ら進んで社会やビジネスの標準・ルールを作っていくことが重要だ」という意識へ変わっていただくことを期待します。 すべての授業科目において，授業改善アンケートを実施していますので，回答に協力してください。

三重大学　1/3

授業科目名	ISO学特論				
担当教員	岩本 威生	所属等	非常勤講師	実務経験の有無	ー
授業概要	国際標準の概要及び企業戦略との関係性、国際標準化の概要と戦略的重要性、国際標準への適合性認証の仕組みと産業の取り組み、主要国際標準化機関の概要、経済のグローバリゼーションとの関係性、日本の取り組み状況、品質マネジメントシステムの国際規格ＩＳＯ９０００１を中心にマネジメントシステム標準の制定に至る背景、標準の内容と目指すもの、地球環境問題を含む産業や社会生活との関わり合いについて、昨今の企業不祥事にも触れながら講義する。				
授業・学修の目的	内閣府が公表した「国際標準化総合戦略」の前書きには「我が国は明治維新以来、及び戦後の復興期を通じて欧米の優れた制度や工業標準を導入し、それらを巧みに活用することによって迅速な近代化と工業化を成し遂げてきた。しかし、日本自身が世界の産業大国となり、我々を取り巻く競争環境が激変した今もその成功モデルから抜け切れていないのではないだろうか。」とある。先行モデルを追いかけるキャッチアップ経済では成功したが、国際競争の最前線に立っている今、追随できる「モデル」はなく、国際標準を作り、利用しつつ自ら切り開いて行くことが求められる。国際標準は、あうんの呼吸が通じる国内市場とは異なり、世界市場で利害が異なる売り手と買い手のあいだの理解を共通化し、活動する事が必要な世界市場で重要な側面を持っている。しかし、日本では日本的品質管理による企業の内部改善の成功にとらわれてその認識がまだまだ不足している。また、多様な事業活動に対応するためには国際標準は原則的な表現にとどまることを認識し、国際標準の理解には総論賛成各論反対の姿勢ではなく原則を理解し個別には自らの置かれているリスクと特性を判断して理解し適用していかねばならない。（続く）				

三重大学　2/3

授業・学修の目的	＊前頁より続く また、国際標準は他者との差別化の源泉にはなり得る要素は非関税貿易障壁となるので含んでいないことも認識しなければならない。従って、国際標準の策定に当たっても、国際標準の利用に当たっても、市場のリスクを理解し充分に自らの戦略性を持って当たっていかねばならない。特に、最近拡充著しい各種国際マネジメントシステム標準はこの傾向が強いが、日本の意識してこなかった領域である。昨今発生している企業の品質不祥事においても「モノ造り」より「モノ造りをさせる企業のマネジメントシステム」の劣化がうかがわれる。従って、国際マネジメントシステム標準の役割と重要性の理解を深めることが今求められている。
一般目標・到達目標	国際標準とその標準化活動、国際標準への適合性認証（証明）、品質保証、マネジメントシステム、地球環境問題についての認識を深め、もって今後直面する各種の問題への対応の基礎知識を広げ、豊富にする。 ＜SDGｓの目標＞

三重大学　3/3

授業計画・学修内容	■学習内容 ２時限の集中講義を８回行う。パワーポイントのスライドを使用する。 教材として、予めスライドのレジメを配付する。 講義内容は以下の通りである。 国際標準、国際標準化活動、国際標準への適合性認証、主要国際標準化機関、主要国と日本の国際標準化戦略、経済のグローバリゼーションと国際標準の位置づけ強化、マネジメントシステム標準の出現と意義、ISO9001の制定の背景と、内容、運用、適用の実例、ISO14001の制定の背景、内容、運用、適用の実例
教科書・参考書等	教科書：教科書は特にないが、パワーポイント講義資料、ISO/IEC専門業務指針第一部附属書SL及び講義スライドのPDFを配布する。また、講義の補助として自作の副読本を配布する。 参考書：参考書としてJISCのウエブサイトに掲載のJISQ9001、JISQ14001規格書を使用する。また、日本規格協会のウエブサイトにあるISOの発行する各種文書の翻訳文書が参考書となる。
成績評価の基準等	出席状況と最後に提出願うレポート（Ａ４用紙５枚程度）により判断
備考	■授業形態：オンライン授業（Zoom）適宜メールによる質疑応答をを組み合わせて行う。 ■授業の特徴：Moodleを活用する授業 ■発展科目：経営工学、環境法規 事前学修の時間:125分/回　　事後学修の時間:100分/回

山口大学　1/3

授業科目名	・標準化と知的財産 ・農業と知的財産				
担当教員	**陳内 秀樹** **生田 容景**	所属等	研究推進機構 知的財産センター 准教授（2名とも）	実務経験の有無	**有：陳内 秀樹**
授業概要	経済のグローバル化が進む中、自らの技術を国際的に広めるためには国際標準の獲得が重要になっていく。例えば、いかに優れた製品であっても国際標準とならなかったために海外において販売ができないなどといったことが起こっている。本講義では標準化の概要や標準をどのようにしてビジネスに活用していくのか、また知的財産権との関係等について解説する。				
授業・学修の目的	ー				
一般目標・到達目標	■一般目標 １．身近な製品やビジネスについて、標準の観点から考える力を身につける。 ２．標準化を通してグローバルな視点で思考する力を身につける。 ３．標準化とビジネスの最先端で活躍中の専門家の話に直接触れ議論することで、ビジネス上の解決策を導き出す力を身につける。				

山口大学　2/3

一般目標・到達目標	＊前頁より続く ■SDGｓの目標 ・(教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。 ・(経済成長と雇用)包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。 ・(インフラ、産業化、イノベーション)強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。 ・(不平等)各国内及び各国間の不平等を是正する。 ・(持続可能な生産と消費)持続可能な生産消費形態を確保する。
授業計画・学修内容	現代ビジネスでは標準・標準化が大きなキーワードとなっている。標準・標準化の概要を理解し、それを適切に活用して自らの技術を世界に広げる意識を持つために、実例の解説を通して学習を進める。 第1回標準化とは 第2回標準化の歴史的トピックと現代 第3回標準化のビジネス効果とデファクトスタンダード 第4回演習1 オープン・クローズ戦略 第5回サプライチェーンとインタフェースの標準化 第6回試験方法標準 第7回オープンイノベーションと標準化 第8回演習２特許と標準化の組み合わせによるビジネス戦略

山口大学　3/3

教科書・参考書等	＜教科書＞ 教則標準化とビジネス 著者名：江藤学, 辻田美紗, 佐々木通孝著 出版社山口ティー・エル・オー ＜参考書＞ JISハンドブック「国際標準化」　著者名：日本規格協会 JISハンドブック「適合性評価」　著者名：日本規格協会 「標準化実務入門」　著者名:経済産業省監修 出版社：日本規格協会
成績評価の基準等	演習課題（授業内レポートとしてワークシートの記載内容）・小レポートをもって総合的に評価する。 定期試験（中間・期末試験） 小テスト・授業内レポート 50%、宿題・授業外レポート30% 授業態度・授業への参加度 受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品10%、演習 10% 出席、欠格条件、その他
備考	■共通教育科目「知的財産入門」 ■知財展開科目「特許法」、「技術経営と知的財産」 ■授業のキーワード：標準、標準化、国際標、ISO、IEC、ITU、JIS、認証、適合性評価、知的財産

山口大学セミナー

授業科目名	知的財産セミナー【標準化コース】（初学者向け） 「新市場創造型標準化制度による戦略的標準化（最近の制度活用事例を含む）」				
担当教員	**山野 芳昭** **※担当教官：陣内秀樹**	所属等	一般財団法人日本規格協会 標準化アドバイザー・千葉大学名誉教授	実務経験の有無	**有**
授業概要	経済産業省は、平成26年5月に標準化官民戦略会議が策定した「標準化官民戦略」に基づいて、新しい市場の創出などを目的として、同年7月に「新市場創造型標準化制度」を創設した。この制度は、企業等が有する優れた技術や製品であるにもかかわらず、業界団体が存在しないなどの理由で標準化を行なうコンセンサス形成が難しい案件について、市場の活性化を目的とした国内標準化（JIS）や国際標準（ISO/IEC）提案を可能とするものである。 本セミナーでは、学部生向けに標準化の基礎的な知識の解説を行いつつ、過去の標準化成功事例に加え、最近の制度活用事例を紹介する。2024年12月18日開催予定				
備考	初学者向けの内容で、学部学生、教職員等を主たる対象と想定しているが、企業等、特に中小企業の方にとっても有益なものである。Zoom開催				

情報セキュリティ大学院大学

1/3

授業科目名	国際標準とガイドライン				
担当教員	後藤 厚宏・藤本 正代・桑名 栄二	所属等	大学院（情報セキュリティ研究科）教授（3名とも）	実務経験の有無	ー
授業概要	ー				
授業・学修の目的	＜授業のねらい＞ 社会生活全般への情報通信技術の導入が拡大するのに対応して、技術および管理方式の標準化の重要性が拡大した。また、グローバル市場で国際標準準拠が必須とされる時代となった。 　この授業では、一般的な標準化活動の意義と課題を確認した後、企業や政府自治体の情報システムを対象に、情報セキュリティ分野における国際標準とガイドラインの意義と課題を明らかにする。また、制御システム、IoT、クラウドサービスに加え、AIサービスや偽情報対策などの新しい分野の標準化動向を検討するとともに、国際標準化でリーダシップをとるために必要な能力について考察する。				
一般目標・到達目標	情報セキュリティ分野における国際標準やガイドラインの意義・役割・課題を自ら分析できる基礎能力を修得すること。				

情報セキュリティ大学院大学

2/3

授業計画・学修内容	次の項目について概要を説明した後、種々の論点を抽出し、異なる立場の主張を識別する。各回、現実の事例について議論を行い、合計2～3回のレポート提出がある。 また、講義と並行して、広くセキュリティに関わる国際標準またはガイドライン案を検討し、提案・発表・討議による演習を行う。 演習テーマ案はクラスの中で議論して絞り込み、各講義時間中に全体議論とグループワークの時間を確保する。第15回は、演習で作成したガイドライン案の発表と討議を行う。 1.標準・規格の意義とその変化　2.情報通信分野における標準化動向　3.国内外標準化組織(JISC,ARIB, ISO, IEC, ITU)　4.情報セキュリティとマネジメントシステムに関する国際標準　5.デファクト標準、フォーラム標準の役割　6.クラウドの標準化動向（その１）　7.クラウドの標準化動向（その２）　8.制御分野のセキュリティガイドラインと国際標準化　9.ＩｏＴシステムのセキュリティガイドラインと国際標準化　10.プライバシーと偽情報対策などの標準化動向　11.AIサービスの標準化動向　12.演習課題の提示と説明　13.受講生による演習：ガイドライン演習（グループディスカッション）　14.受講生による演習：ガイドライン演習（グループディスカッション）　15.受講生による演習：ガイドライン演習（発表） ※順序は、受講者の希望や進度によって変更することがある。
教科書・参考書等	教科書は定めないが、ウェブサイト上に資料を掲載する。 授業の過程で必要に応じて紹介する。
成績評価の基準等	到達目標を充足しているかどうかを評価の基準として、各講義でのディスカッション状況(60%)、２～３回のレポート及び発表(40%)によって総合的に評価する。

情報セキュリティ大学院大学　3/3

備考	開講形態は別途通知。 ■次の科目を履修済み、または同時に履修することが望ましい ・セキュア法制と情報倫理 ・知的財産制度 ・暗号・認証と社会制度 ・リスクマネジメントと情報セキュリティ ・セキュリティ経営とガバナンス ・セキュリティの法律実務 ・個人識別とプライバシー保護 ・実践的IoTセキュリティ ・情報システム構成論

東京理科大学　1/3

授業科目名	品質管理１				
担当教員	鈴木 知道	所属等	創域理工学部　経営システム工学科　教授	実務経験の有無	ー
授業概要	顧客の満足を得るために安全で良い製品を安く生産し，販売・サービスする活動の全体を総合的品質管理（TQM）という．TQMは統計的品質管理（SQC）が適用範囲を拡大して発展してきたものである。品質管理はいまや社会人にとって常識ともなっている。現在日本で広く普及している統計的品質管理と総合的品質管理について，その歴史，根本理念，概要，将来を学ぶ。また品質管理に関するJIS（日本産業規格），ISO（国際規格）などの標準化の動向について，特に統計的方法の規格（ISO/TC69）に関する問題も学ぶ。QC検定の実践編の内容についても広くカバーする。				
授業・学修の目的	品質管理の様々な概念や手法について理解する。 本学科のディプロマ・ポリシーに定める『経営システム工学科の学問分野に応じた基礎学力と、その上に立つ専門知識。』を実現するための科目です。				
一般目標・到達目標	品質管理の手法を実際の問題解決に適用できる能力を身につける。				

東京理科大学　2/3

授業計画・学修内容	1　オリエンテーション　オリエンテーション，及び講義の概要 2　品質管理とは　経営工学の発展／日本的経営／日本的品質管理 3　品質管理の基礎知識　品質管理の基本的な考え方 4　品質管理の心構えと行動　品質管理の実践 5　管理図－１　管理図の基本 6　管理図－２　管理図の使い方 7　管理図－３　様々な管理図の解説 8　新QC七つ道具　各手法の紹介，適用例 9　標準化　標準化，JIS，ISO 10　国際標準化－１　統計的方法の国際標準化の活動（ISO/TC69）の動向－１ 11　国際標準化－２　統計的方法の国際標準化の活動（ISO/TC69）の動向－２ 12　医療・介護の品質管理　医療および介護の分野における品質管理 13　QC検定　品質管理検定（ＱＣ検定）の概要，活用 14　TQM，品質賞　国内外の品質賞の概要 15　まとめ　総括とまとめ
教科書・参考書等	＜教科書＞なし ＜参考書＞必要に応じて講義資料を配付する。講義中にしばしば参照する「品質管理検定（ＱＣ検定）４級の手引き」，及び書籍「JISハンドブック品質管理」（日本規格協会）は有用な参考書である。

東京理科大学　3/3

成績評価の基準等	提出物が所定の基準を満たしていることを前提とし，試験や演習などを総合して最終成績とする。
備考	各回の準備と復習を十分しておくこと。

関西学院大学

授業科目名	**標準化経営戦略**				
担当教員	松本 隆	所属等	専門職大学院　経営戦略研究科【経営戦略専攻企業経営戦略コース】	実務経験の有無	ー
授業概要	ー				
授業・学修の目的	ー				
備考	概要等情報なし				

多摩地区国立大学　1/2

参加大学	電気通信大学、東京農工大学、一橋大学、東京学芸大学、東京外国語大学
授業科目名	**「学域特別講義B（’22標準化）」「大学院特別講義（’22標準化）**
担当教員	外部講師(9名) 江藤学（一橋大学）、岡本 秀樹（アズビル株式会社）、大隅慶明（パナソニックホールディングス株式会社）、今瀧博文（一般社団法人GAP普及推進機構）、小宮山利恵子（(株)リクルート・スタディサプリ教育AI研究所所長）、桜井 駿（株式会社デジタルベースキャピタル 代表パートナー）、大野香代（産業環境管理協会）、泉泰雄（オリエンタルコンサルタンツグローバル理事）、道井 緑一郎(TPP等政府対策本部 企画・推進審議官（大使）)
授業概要	この授業を通じて、「標準化」（国際ルール作り）の定義、その歴史、さらに具体的な産業ごとにどのような課題が存在しているのかを学ぶ。経済産業省の課長として「標準化」問題の最前線を知る一橋大学の江藤学先生の基礎的な講義のあとで、機械、電機・電子、通信、バイオなど多様な産業の具体的な事例に即して、そのリアリティを知ることができる。こうした知識を持っていることは、これから就職活動を控えている学生、また現にその真っただ中にいる学生にとって、即効性のある有効な武器になるはずである。2022年9月開催
授業・学修の目的	ー

多摩地区国立大学　2/2

一般目標・到達目標	この共同授業は、国が主導する「標準化官民戦略会議」の後押しをうけて、東京外大、東京農工大、電通大からなる西東京三大学連携を基礎に、さらに一橋大学と東京学芸大が協力して実施される日本で初めての画期的な講義です。「標準化」とは、工業規格などの技術の普遍的な基準を確立することであり、技術の普及や発展の前提を整えることを意味します。それはしばしば単なる「規格化」と混同されますが、「標準化」とはそれ自体が国際ルール作りの闘争であり、ダイナミックな交渉や調整のフィールドです。我が国では、この「標準化」への取組みが欧米や中国などに比べて弱かったために、技術開発の面での成功を、国際競争力での優位性に結び付けることに失敗してきたという苦い歴史をもっています。「標準化官民戦略会議」はこうした反省にのっとり、企業経営のトップに「標準化」が技術開発と並行した国際ルール作りの戦場であるという自覚を持たせるとともに、これから国際社会で活躍する若いエリート人材のなかにも、「標準化」についての理解とセンスを涵養しようと試みています。多摩地区の五つの大学はその問題提起に呼応し、経済産業省や産業界の支援を受けつつ、また文理協働の観点から東京外大のような文系の大学も交えて、今回の特別な集中講義を実現することになりました。
授業計画・学修内容	1共通標準化の基礎、2 共通製品基準とビジネス、3 共通試験方法標準、4分野別：自動車、5分野別：電気・電子、6分野別：農業、7分野別：通信、8 共通認証ビジネス、9 共通イノベーションと標準化、10分野別：金融・不動産、11分野別：教育、12分野別：環境・バイオ・化学、13分野別：グローバルビジネス、14分野別：国際機関、15 共通まとめ
教科書・参考書等	江藤学著『標準化ビジネス戦略大全』日本経済新聞出版 2021年
備考	ー